

グラフィックシンボルとしての文字のデザイン研究

—道教の「呪符」を中心に

Research on the Design of Letters as Graphic Symbols

— Focusing on the Taoist “Zhou Fu”

■ 汪力 Li Wang

愛知県立芸術大学大学院 佐藤直樹研究室

Aichi University of the Arts

■ キーワード：グラフィックデザイン 呪符 記号 造形

はじめに

現代中国における漢字表記は、簡体字を採用している。しかし、造形原理を尊重しない字形の簡略化は、中国の伝統文化を大きく損なうだけでなく、漢字本来の形状の美しさも損なっている。

本研究は、道教の呪符に見出される「線」による呪術的な造形表現に着目し、これらの研究を通して現代におけるグラフィックシンボルとしての文字表現を探究するものである。2023年度は、研究をより深めるために、呪符の歴史や様々な造型について考察した。

1. 呪符について

1.1. 道教の呪符

呪符とは、道教で用いられる「文字」と「図形」で描かれた呪い(まじない)の札のことをいう。幽霊や神を呼び寄せ、悪霊を追い払い、人間に幸運をもたらすことができると考えられている。呪符の発展には、5つの時期がある(図1)。長い時を経て、一般的には「文字」が主な表現形式となる。呪符に書かれている文字は規範的な正字の変形で、ほとんどが分解された部首の組み合わせであるため、通常の漢字使用者であっても解読はできない。

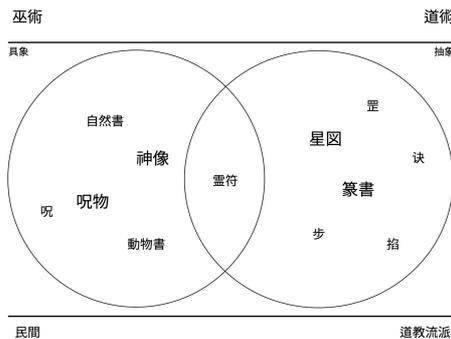


図1 道教の呪符

1.2. 呪符の形成

呪符は、記録に初めて現れてから約2千年の間に発展し、文字を中心とした体系が確立した。呪符のパターンは通常の文字と同じように進化しながらも、独自の変形パターンを持っており、大変複雑である。最初に作られた正字の形をもとに簡単な変更を加え、その後、絶え間ない改革と実践を経て、より道教に役立つお守りが作られるようになっていった。また、時代の変遷とともに、時代や地域によって呪符文字の形が異なっている。その結果、後世の人々がこれらのお守りの意味を読み解くことが難しくなってしまったのである。

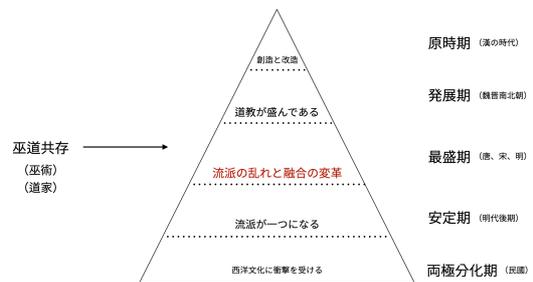
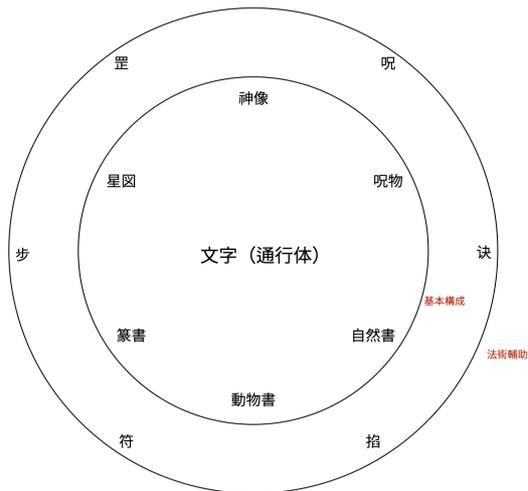


図2 巫術と道術の応用

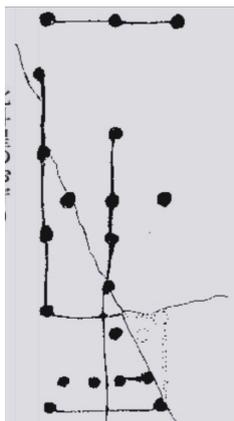
2. 呪符の構成

道教の呪符の構成は、巫術から発展したものである。道教が独自に改造して、独自の特徴を持ったお守りを開発したのである。呪符の構成は、①図形、②装飾、③文字の三つの部分で構成されている。文字システムが完成されるにつれて、文字が符呪の中で占める割合もまた増大している。



2.1. 図形符

数ある呪符の中には、天体の動きや陰陽の状態を表すものや、占星術、気象、エコロジーなどに関連するもの、例えば、星座、雲、雷、風、雨などがある。元嘉十年の星符もその一つである。このような図形の意味を借りて、宇宙の存続や万物の動きの意味を伝えているのである。図4上部の3点は道教の3つの神々を表している。中段から下段にかけての図形は北斗七星の7つの星を示す。ただし、この呪符では、他の図形に合わせて北斗七星の本来の形を変えてしまっている。この方法は、後世の呪符によく使われている。



2.2. 文字符

文字は、言語を記号によって記録・伝達する文化的な道具であり、言語のコミュニケーション上の役割を時間的・空間的に拡大し、人類における文明の構築と発展に大きく寄与してきた。呪符の発展においても、さまざまな文字の影響が強くみられる。そのパターンには、八つのスタイルと六つのテキストがある。

スタイルとは、文字符の八つの分類のことである。天の書、神の書、地の書、内の書、外の書、幽の書、中夏の書、異国の書である。六つのテキストとは、文字符の造符法である象形、指事、会意、形声、転注、仮借を指し、これは漢字の造字法と全く同じである。したがって、呪符も漢字文化の枝葉の一つである。

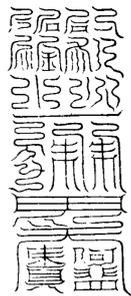


図5 天の書の符

2.3. 総合符

文字や星図などの図像を組み合わせた呪符を総合符と呼ぶ。組み合わせの形は、それぞれ別々に存在する場合もあれば、複数の形態要素が融合されている場合もある。

図6の呪符は、主に幽霊の姿を表現する呪符で、神将のような神の像が加わっている。いくつかの形式のコンポジションが使われ、時には混合されることもある。同時に、民間信仰の変化にも対応した微細な変更が実行される。



図6 神将の符

3. 呪符の文化

呪符の文化の多くは、道教の文化から発展したものである。道教の文化は漢の時代に生まれており、漢の時代の知的・文化的背景の産物である。道教の文化は「学」と「術」の二つに分けられる。同時に、他の宗教の教えやその土地に由来存在した教義等を吸収し編集することで、現在の完全な文化体系を形成していった。「学」は主に道教の倫理・哲学と儒教の社会・道徳の教えに由来し、「術」は主に巫術から派生したものである。

1) 呪符の学

呪符の「学」は、三つのパートで構成されている(図7)。道教の倫理学、道教の哲学、道教の神学である。呪符文字で最も広く使われている神格体系は、道教の神学と道教の倫理学の結合から生まれたものである。

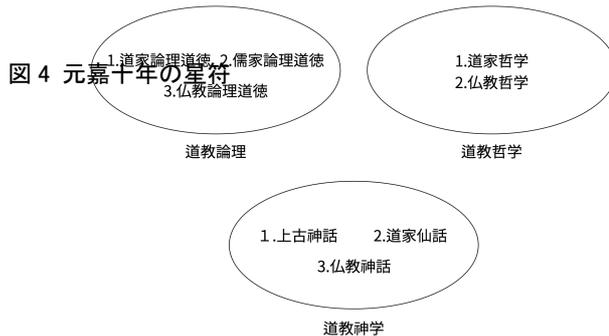


図7 呪符の学

2) 呪符の術

呪符文字に含まれる「術」は、主に巫術から受け継いだものである(図8)。その後、道教によってさまざまな儀式に応用された。呪符は、さまざまな儀式と組み合わせて使われることが多い。

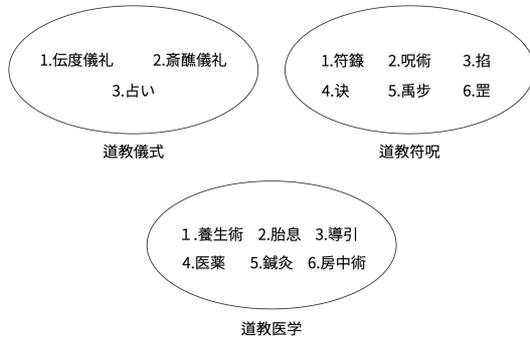


図8 呪符の術

4. 呪符の発展

道教の原始的な始まりから、西洋文化の影響を受けて両者が融合し、そののち分岐した後期までの展開には、全部で五つの期間があった。また、それぞれの特徴や魅力も様々な場所に散らばっていった。道教の呪符は、現地の文化と融合し、新たな文化的アイデンティティを形成した。

4.1. 符呪の標準化

呪符の流派が統一されてから、道教の呪符はさらに改良されて充実したものになっていった。明と清の時代以降、印刷の発達が道教の拡大に大きな影響を与えた。その結果、儒教、道教、仏教の融合という考え方を背景に、道教の理論が大きく発展した。また、道教の呪符は、社会史的变化に対応してその形を革新し、印刷物としての形式・仕様に合わせて、呪符の形態も統一された。



図9 印刷の符

4.2. 呪符の融合

明や清の時代以降、新しい呪符の体系は生まれず、道教の新しい体系も生まれていない。道教の呪符の形態や内容は、元時代以前と同じパターンである。特別に「仏」の文字を埋め込むなど、他の宗教のシンボルを採用したものもあったが、大きな流行とはなり得なかった。また、呪符の進化は、中国の信仰の世界の進化にも多少反映されており、特定の神の地位が上がれば、その名を冠した呪符が普及し、地位が下がれば逆に忘れ去られている。

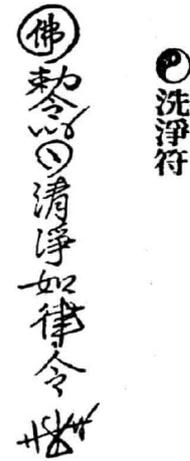


図10 洗淨符

4.3. 海外の伝播

奈良・平安時代には、中国の道教の古典や不老不死、妖怪や神への信仰、学と術などが日本に伝わっていた。これは、日本古来の政治、宗教、民間信仰に影響を与えた。平安時代、宇多天皇の寛平年間(889~898)、藤原佐々成は中国の古代道教の経典を多数収録した「日本国見在書」の編纂を依頼されている。

また、沖縄に本格的に呪符が伝わるのは一七世紀以降で、一八世紀には民間レベルまで浸透していた。

呪符の種類としては病気に関するもの

が最も多く、その他には出産に関するもの、男女間の愛に関するもの、護身に関するものなど、概して生活に密接に関わるまじない用がほとんどであるが、それらは本土の呪符の効能・信仰と共通ないしは類似している。また窪徳忠氏の教示によれば、「急急如律令」の急の字に唵を用いた例は中国に無く、日本の呪符の特徴のようであるが、沖縄の呪符には唵の字が用いられているなど、日本独自の特徴が見られる。



図11 護符

5. 作品制作

5.1. 年表

呪符に関する情報を収集し、収集した情報の文献調査や実地調査を行った。呪符の発展過程、文献と現状との関連で年表として制作する。(図12)

